

令和6年能登半島地震

派遣報告について



第14次吹田市水道事業経営審議会
－第5回資料－
令和6年(2024年)3月28日(木)

01

能登半島地震の概要

02

日本水道協会の応援体制

03

本市の活動内容

04

振り返り

01

能登半島地震の概要

発 生 時 刻

令和6年1月1日16時10分頃

震 源 地

石川県能登地方

地 震 の 規 模

マグニチュード7.6（最大）

石川県内の震度

震度7 志賀町・輪島市

震度6強 七尾市・珠洲市・穴水町・能登町

震度6弱 中能登町

震度5強 金沢市・小松市など7市町

震度5弱 白山市・津幡町・内灘町





今回の地震被害の特徴

- 木造家屋の倒壊を含む被害件数が非常に多い。
- 斜面崩壊、道路の陥没、隆起など地盤災害が多い。
- 液状化現象が広範囲で発生した。
- 浄水場に大きな被害があった。



断水状況（石川県内）

主な市町	発災当初(最大)	3月26日時点	復旧率
七尾市	21,800戸	400戸	98%
輪島市	11,400戸	3,310戸	71%
珠洲市	4,800戸	4,400戸	8%
志賀町	8,800戸	0戸	100%
穴水町	3,200戸	0戸	100%
能登町	6,200戸	1,020戸	84%
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
石川県内	113,020戸	9,260戸	92%

復旧が長期化している理由

- 断水の被害が広範囲（取水施設・導水管・浄水場・浄配水池・配水管）にわたり、水道管が壊れた場所の調査や修繕に多くの時間を要している。

- 道路状況がかなり悪く、被害把握が遅れた。
また、復旧資材の搬入にも支障をきたし、復旧が遅れている。

- 全国の自治体からの職員が応援に入っているが、現地での宿泊が難しい中、金沢市に宿泊する職員もいて移動に時間がかかり、作業できる時間が限られていた。

- 山地、丘陵地が多い半島であることから樹枝状管路となっている。
⇒根元の被害が全体に影響。バックアップが困難。

- 多くの配水池に緊急遮断弁が設置されておらず空になる。
⇒管路が充水されていないため漏水確認ができず、復旧作業を開始できない。

- 雪が積もると止水栓の場所が見えなくなるため、まずは除雪を行う必要があり、円滑に作業が進まなくなる要因となっている。

02

日本水道協会の応援体制

日本水道協会の支部組織

(令和5年12月現在)

地方支部名	地方支部長	所属都府県支部・地区協議会 ※()内は都府県支部長・地区協議会区長	正会員数
北海道	札幌市	道央地区協議会(恵庭市)、道東地区協議会(釧路市) 道南地区協議会(室蘭市)、道西地区協議会(函館市) 道北地区協議会(旭川市)	136
東北	仙台市	青森県(青森市)、岩手県(盛岡市)、宮城県(石巻水(企)) 秋田県(秋田市)、山形県(山形市)、福島県(郡山市)	164
関東	横浜市	茨城県(日立市)、群馬県(前橋市)、栃木県(宇都宮市) 埼玉県(さいたま市)、千葉県(千葉市)、東京都(東京都) 神奈川県(川崎市)、山梨県(甲府市)	236
中部	名古屋市	新潟県(新潟市)、富山県(富山市)、石川県(金沢市) 福井県(福井市)、長野県(長野市)、岐阜県(岐阜市) 静岡県(静岡市)、愛知県(豊橋市)、三重県(津市)	259
関西	大阪市	滋賀県(大津市)、京都府(京都市)、大阪府(豊中市) 兵庫県(神戸市)、奈良県(奈良市)、和歌山県(和歌山市)	171
中国四国	広島市	鳥取県(鳥取市)、島根県(松江市)、岡山県(岡山市) 広島県(呉市)、山口県(下関市)、徳島県(徳島市) 香川県(香川県水(企))、愛媛県(松山市)、高知県(高知市)	142
九州	福岡市	福岡県(北九州市)、佐賀県(佐賀市)、長崎県(長崎市) 熊本県(熊本市)、大分県(大分市)、宮崎県(宮崎市) 鹿児島県(鹿児島市)、沖縄県(那覇市)	215

令和6年能登半島地震における日本水道協会の対応

① 応援体制

日本水道協会救援本部(東京)
※1月1日18時10分設置



現地本部(金沢)

中部地方支部

関東地方支部

関西地方支部

現地本部(日水協)

※厚生労働省・国土交通省等と適宜情報共有

応急給水

全国7地方支部
による応援活動
を実施

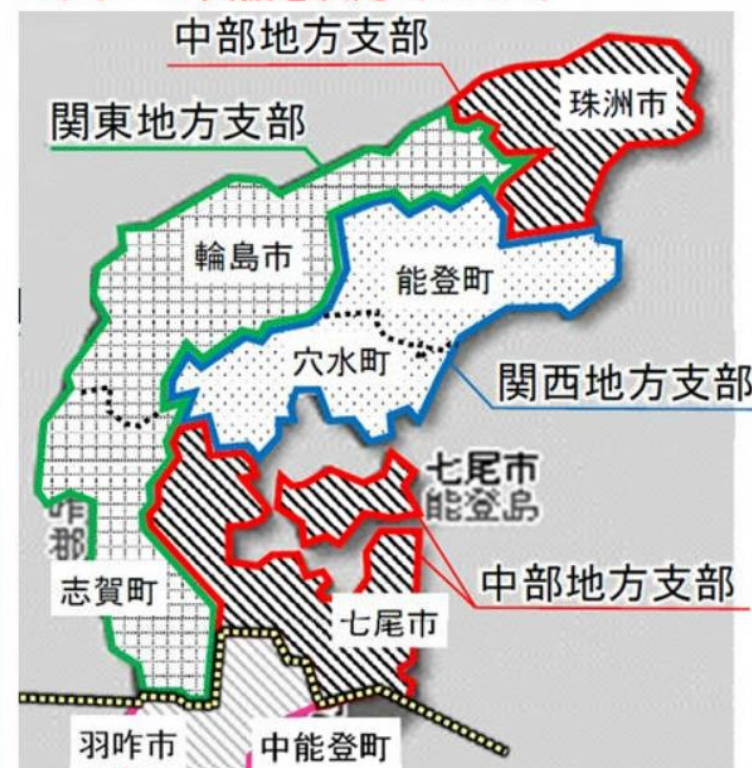
応急復旧

(令和6年1月29日時点)

被災地	地方支部名
珠洲市・七尾市	中部地方支部 (支部長都市：名古屋市) 東北地方支部 (支部長都市：仙台市)
輪島市・志賀町	関東地方支部 (支部長都市：横浜市) 中国四国地方支部 (支部長都市：広島市)
能登町・穴水町	関西地方支部 (支部長都市：大阪市)

② 被災地(6市町)の役割分担

能登北部6市町への応急給水・応急復旧
パッケージ支援を決定(R6.1.5)



03

本市の活動内容

1月1日	地震発生（水道部幹部職員等情報共有）
1月2日	水道部幹部職員等参集（派遣活動協議）
1月2日	日本水道協会より関西地方支部に応援要請 （当初は限られた自治体のみ）
1月3日	幹部職員及び総務G参集（派遣活動準備）
1月15日	日本水道協会より大阪府支部へ要請（応急給水）
	⋮ ※この間府内各市が交代制で派遣
2月5日～2月9日	応急給水活動：穴水町（公民館や小学校での活動：計5名）
2月20日～2月28日	応急復旧活動：能登町（漏水調査・通水作業：計8名）
3月7日	断水解消により穴水町における応急給水要請終了
3月13日～4月末	応急復旧活動（漏水調査・通水作業：計30名）

2月5日～2月9日

応急給水活動：穴水町（公民館や小学校での活動：計5名）



2月5日～2月9日

応急給水活動：穴水町（公民館や小学校での活動：計5名）



2月5日～2月9日

応急給水活動：穴水町（公民館や小学校での活動：計5名）



2月5日～2月9日

応急給水活動：穴水町（公民館や小学校での活動：計5名）



2月5日～2月9日

応急給水活動：穴水町（公民館や小学校での活動：計5名）



2月20日～2月28日

応急復旧活動：能登町（漏水調査・通水作業：計8名）



2月20日～2月28日

応急復旧活動：能登町（漏水調査・通水作業：計8名）



2月20日～2月28日

応急復旧活動：能登町（漏水調査・通水作業：計8名）



2月20日～2月28日

応急復旧活動：能登町（漏水調査・通水作業：計8名）



2月20日～2月28日

応急復旧活動：能登町（漏水調査・通水作業：計8名）



2月20日～2月28日

応急復旧活動：能登町（漏水調査・通水作業：計8名）





情報共有

現地での活動職員同士の情報共有



現地職員と水道部本部との情報共有



04

振り返り

応 急 給 水



道路状況が悪かったり長距離の運転であったためかなり気を使った。大型車の運転に慣れている人が1台につき1人は必要であると感じた。



これまでの派遣活動では被災者の方と直接会話をしながら応急給水を行うことが多かったが、今回はあらかじめ用意された自衛隊のタンクへの補水であったため、現地の方の声が聞けなかったことが残念であった。



平均睡眠時間は3～4時間であったため、活動時は気が張っていて大丈夫であったが、帰庁してからの数日は疲れが取れなかった。



現地では下水管も大きな被害を受けていることから、トイレ（特に大）が使用できず、体調管理に気を使った。

応 急 復 旧



現地での情報共有はLINE等スマホを活用している一方、紙ベース資料も受援としては必要であると感じた。(デジタルとアナログの併用)



耐震化計画や復旧計画には漏水調査の日数をしっかりと取る必要があると感じた。



現地の活動では、土木職に加えてポンプ室の動作などがわかる設備職も必要であると感じた。



どうすればいち早く解消に向かうかを考えるきっかけとなった。



現地で対応してくれた職員は自らも被災し、家族を金沢に避難させ、休みなく活動している。家も新車もつぶれてしまった。そのような現地職員との時間を共有するにつれ、自らが交代で大阪に帰ることが非常につらかった。

